男前でイケメンな女に
寝取られた彼氏

やっやばい…。
教科書忘れた。
でも…隣…
女子だ…。どうしよう。

!
緑山ミカン

!
島田ハヤト

あれ？もしかして、教科書忘れたの？
あっ、えっと…。あ、あ、うん…。
なんだ、言ってくれればよかったのに。
よいしょっ。

これが、僕と彼女との
初めての出会いだった。
ち、近い…。

ありがとう…。緑山さん。
ううん。困ったときはお互い様だしね～。
あの…腕…怪我してるけど大丈夫？

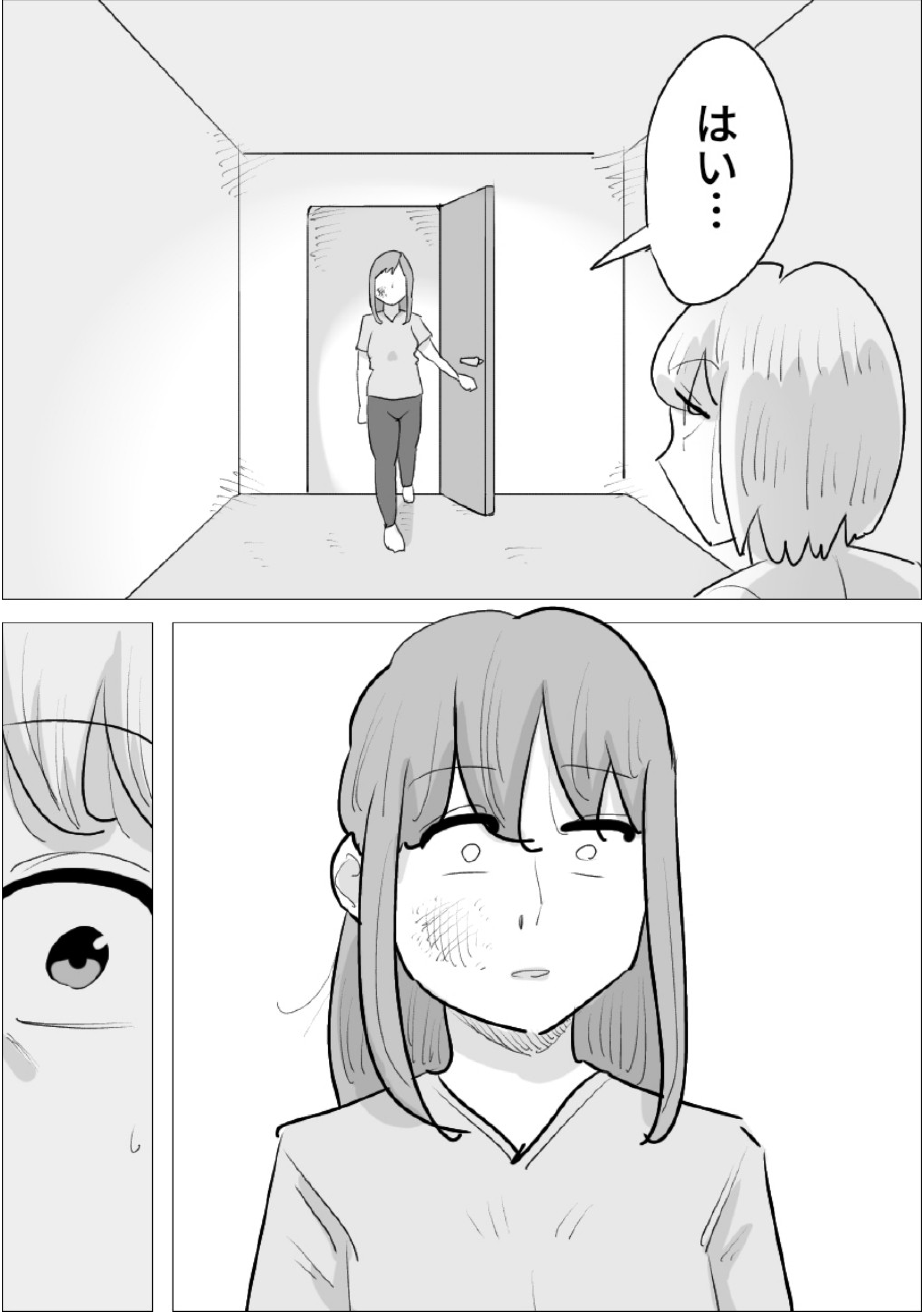
ううん、何でもない。転んだだけ。

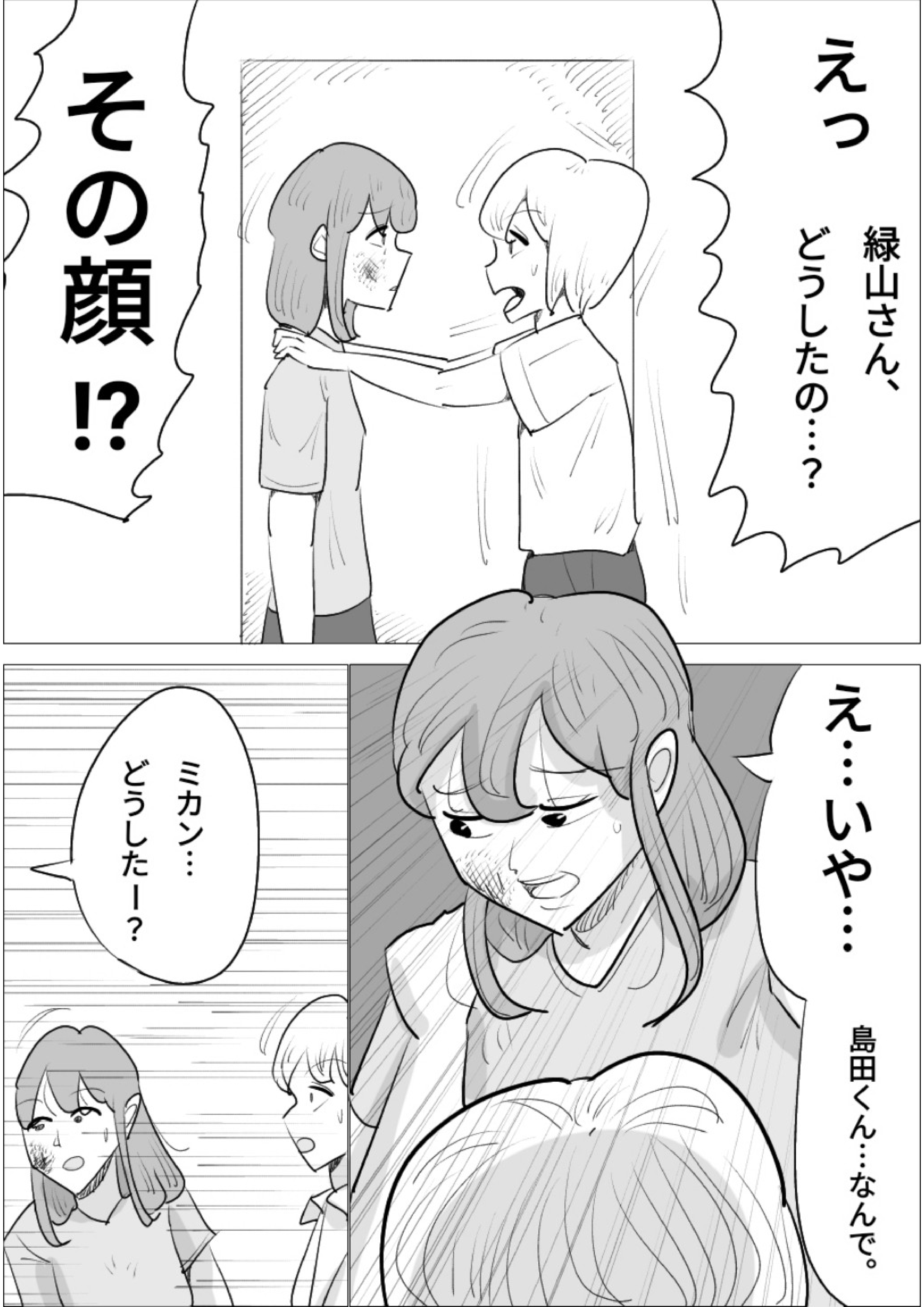
それからしばらく
緑山さんは
学校へ来なくなった。
先生は
家庭の事情と言っていた。

ああ、島田、ちょっと頼みたいんだが
緑山の隣の席だったよな？お前。これ届けてくれ。緑山のプリントだ。
はい…。

緑山さんなんで、休んでるんだろう。

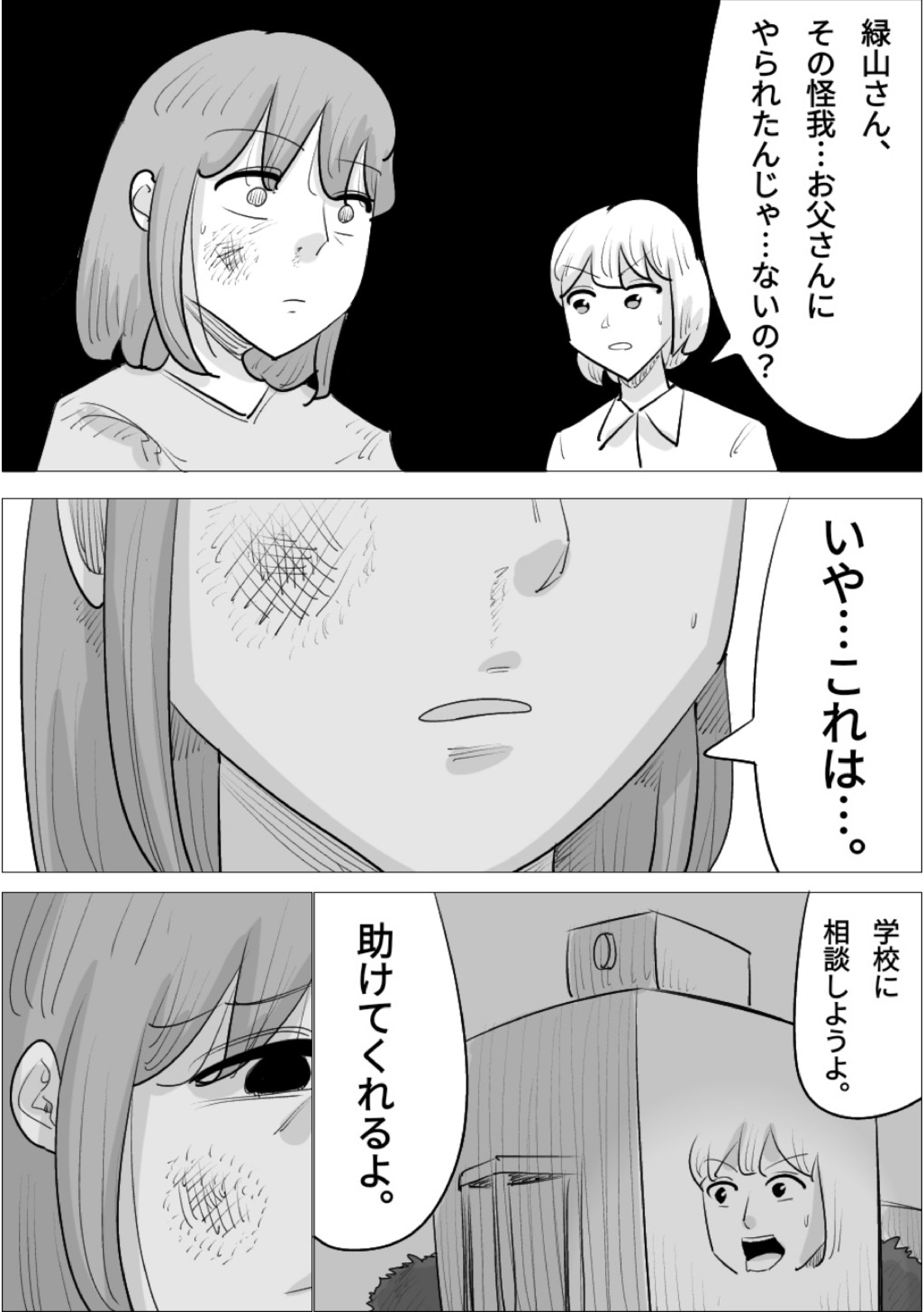
ここか……。緑山さんの家。
すいませーん。ごめんくださーい。

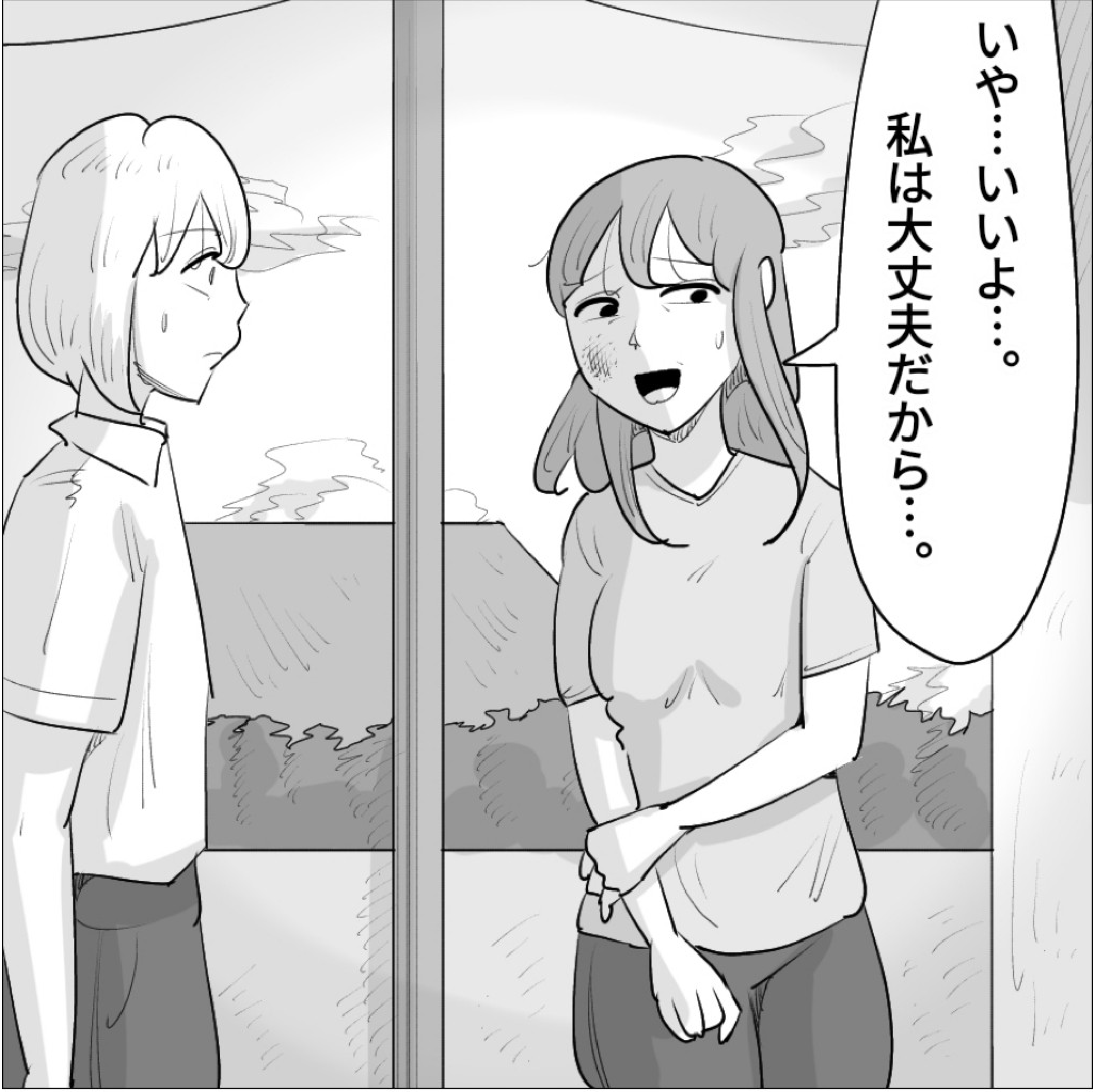

はい…


えっ
緑山さん、どうしたの…？
その顔!?
え…いや…
島田くん…なんで。
ミカン…どうしたー？

ミカンのお友達か…？

ああ、はい…。プリント届けに来ました。
そうか、ありがとうね。わざわざ。
お菓子でも食っていくかい？
い…いえ…。遠慮しておきます。


緑山さん、その怪我…お父さんにやられたんじゃ…ないの？
いや…これは…。
学校に相談しようよ。
助けてくれるよ。

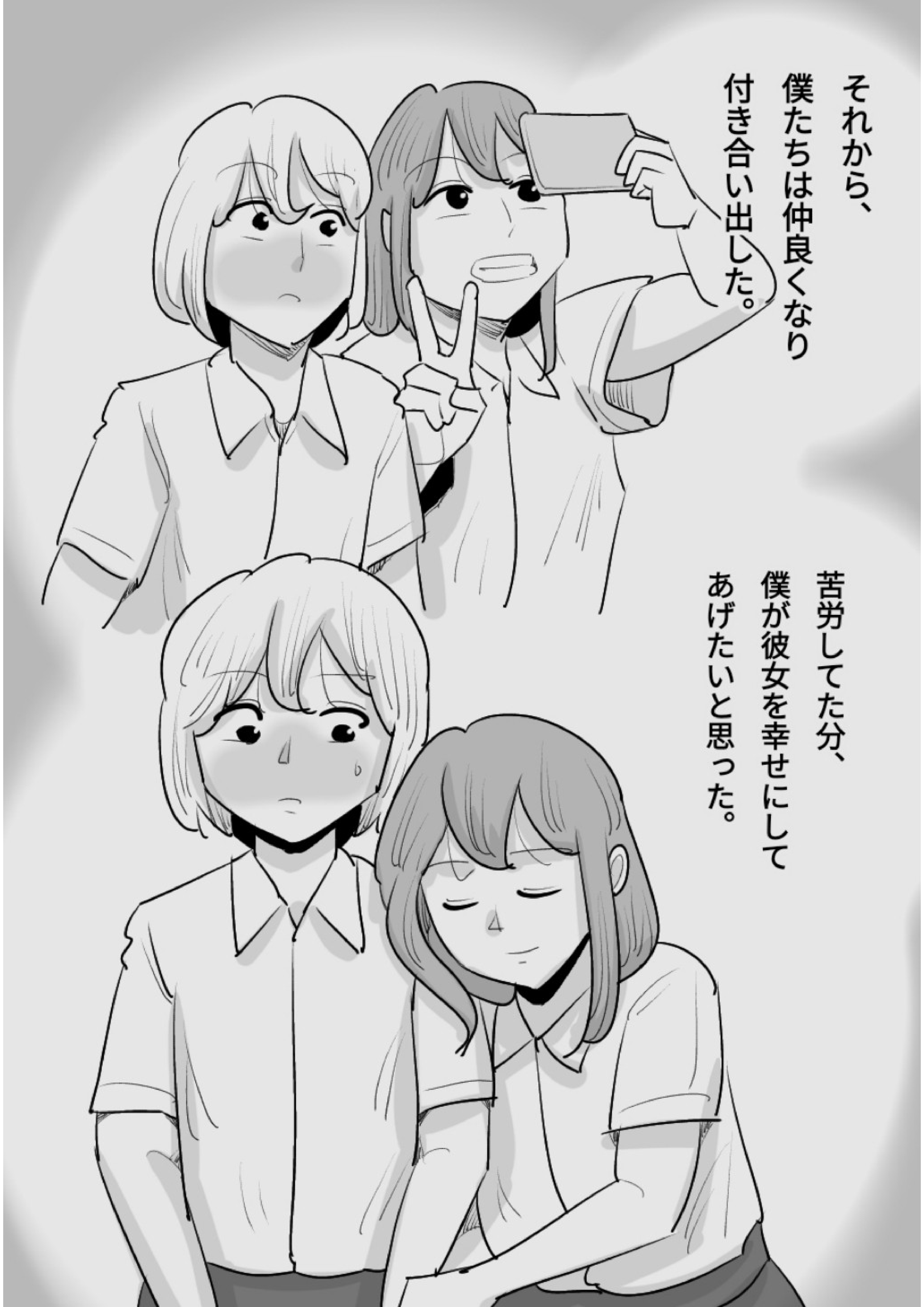

いや…いいよ…。
私は大丈夫だから…。

プリント、
ありがとうね…。
それじゃあ。

本当に…
大丈夫なのかな…。
緑山さん…。
でも…
僕には…何も…。

べちっ
お前が呼んだんじゃないだろうなーっ。
ちがうっ…学校の先生に頼まれて持ってきてくれただけなのっ。
やだよっ。お父さんっ

ガッ
オラあああああああ
あああああああああああ
ミカンちゃんを
いじめるなあああ。


それから、
僕たちは仲良くなり
付き合い出した。
苦労してた分、
僕が彼女を幸せにして
あげたいと思った。

王子マコト

うわ〜、王子様よ。今日もカッコいい〜。
身長も高くて、肌もキレイだし、イケメン〜。
でも、噂で聞いたんだけど

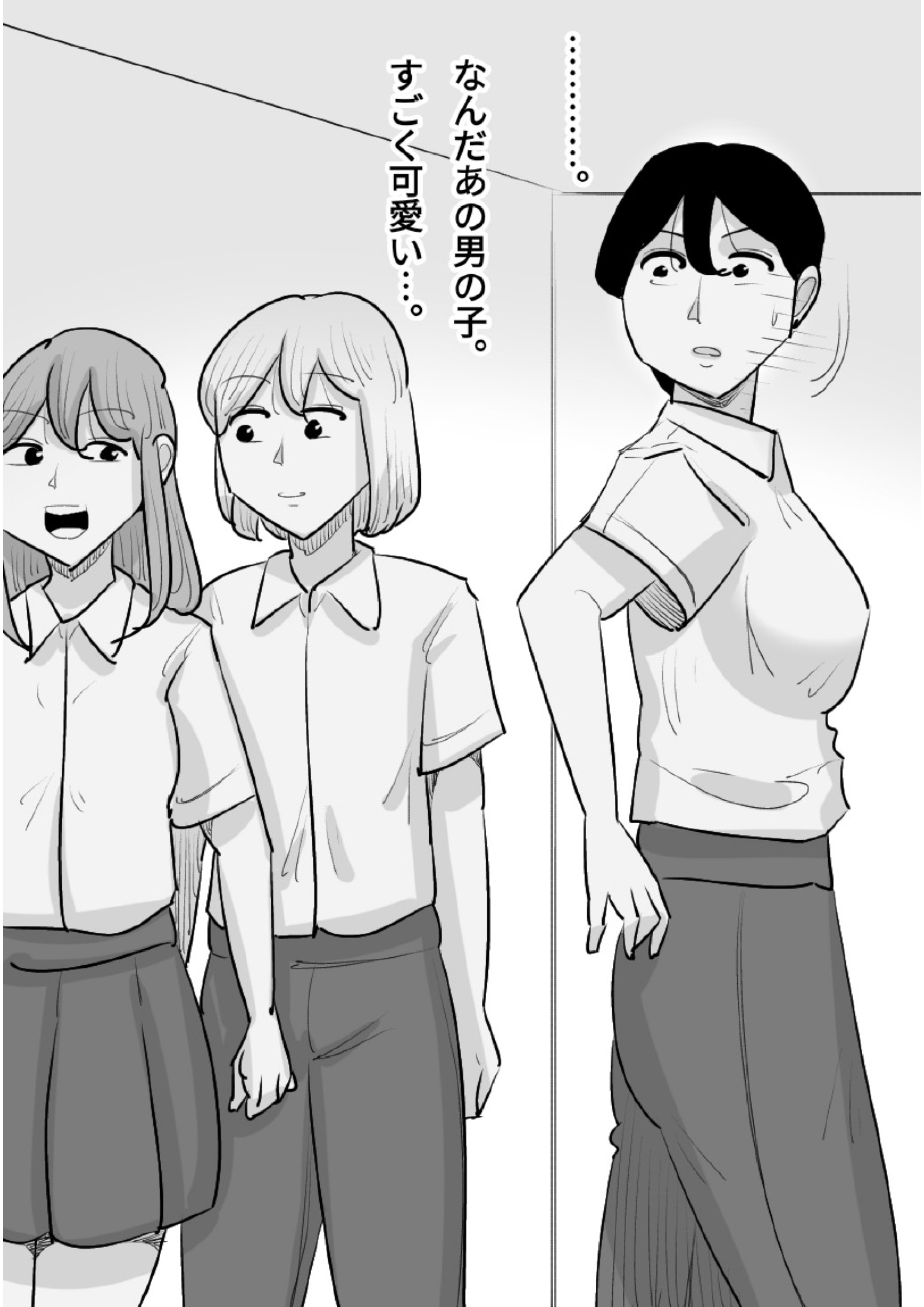
学校で年下の
可愛い男の子に声かけて
食い漁ってるらしいわよ〜。
え〜。

でも、
あの人だったら
許せる～。
私も抱かれた～い。
たしかに、たしかに。

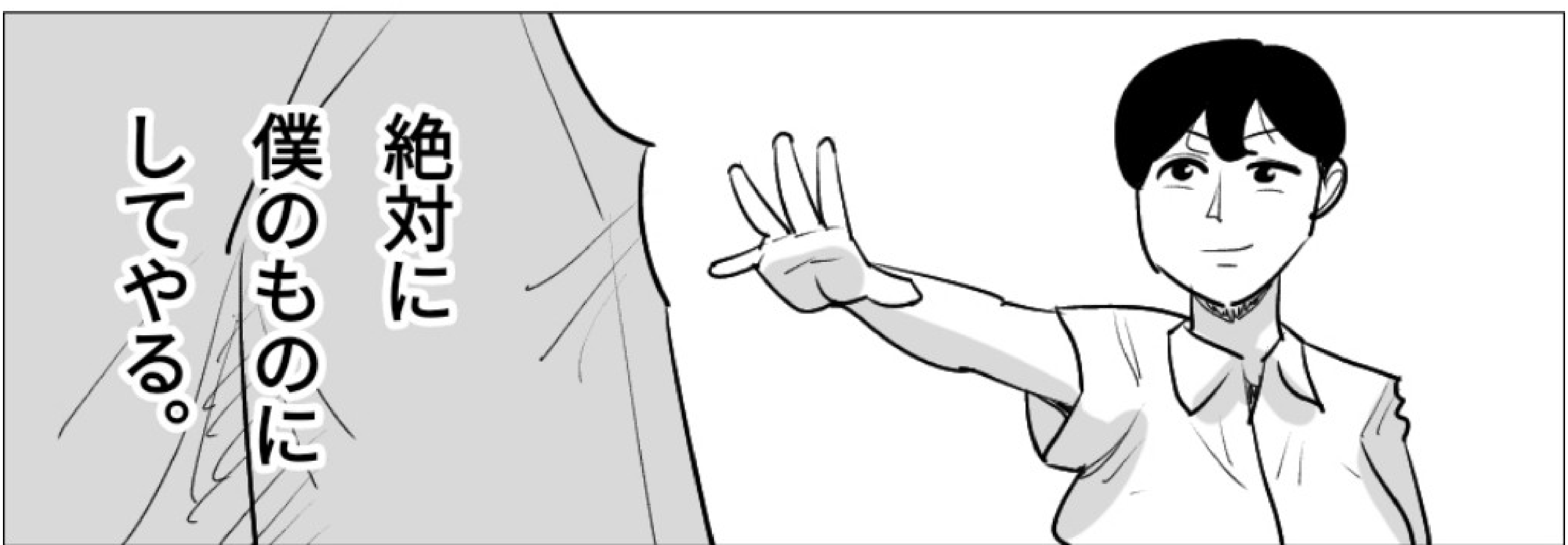
あっ、危ないっ。
ザッ
ぎゃあっ

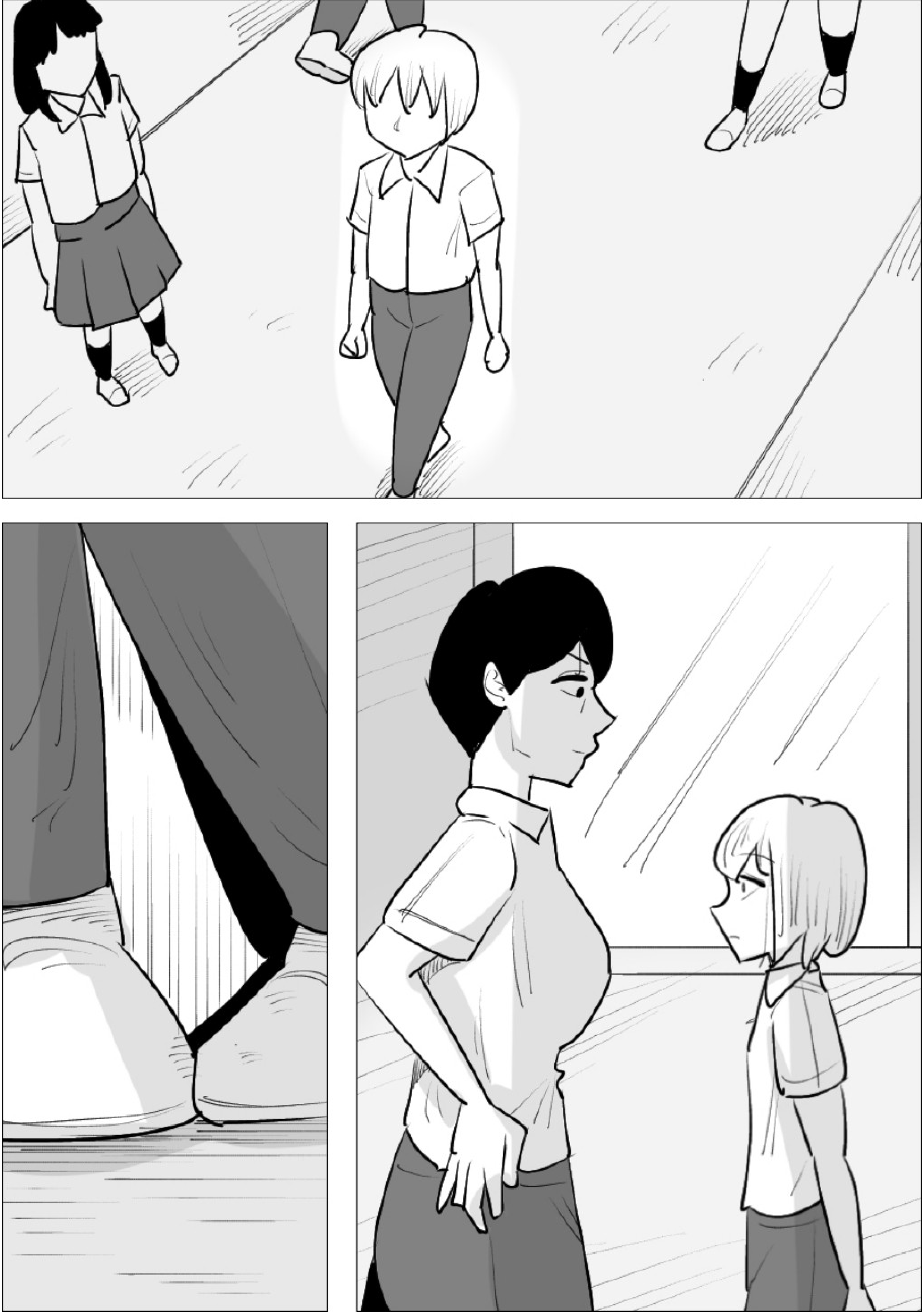
大丈夫？
きゃっ

気を付けるんだよ。
は、はい。ありがとうございます。
いつか、抱かれた～い。


……。
なんだあの男の子。
すごく可愛い…。

あの二人、
仲良さそうだな…。
クソ……
彼女いるのか。
でも

あの男の子と
イチャイチャしたい。
いじめたい。

絶対に
僕のものに
してやる。



え。

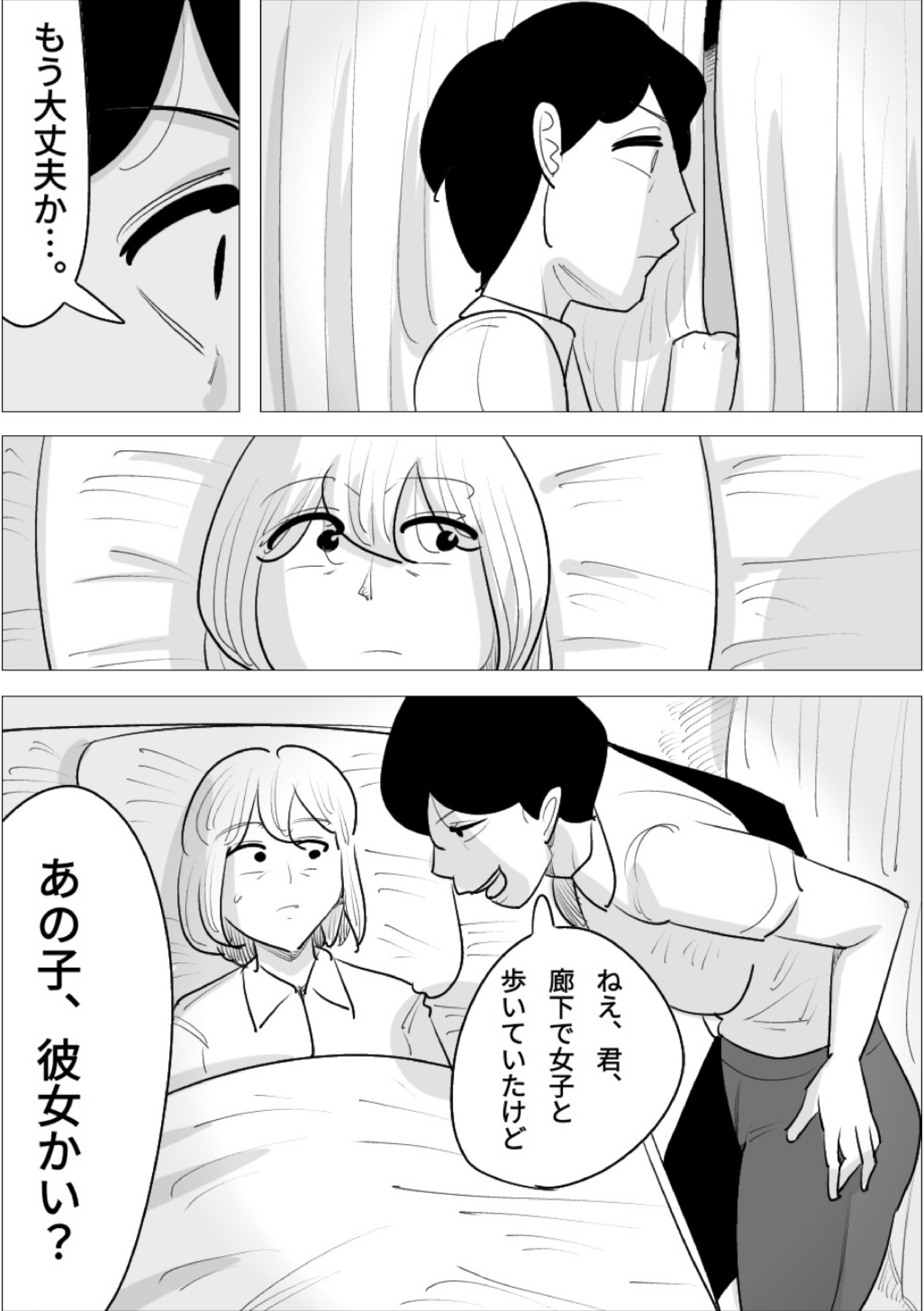
大丈夫だったかい？
すいませんっ。
あ、ありがとうございます。

えっ…やば…
胸に当たってる…

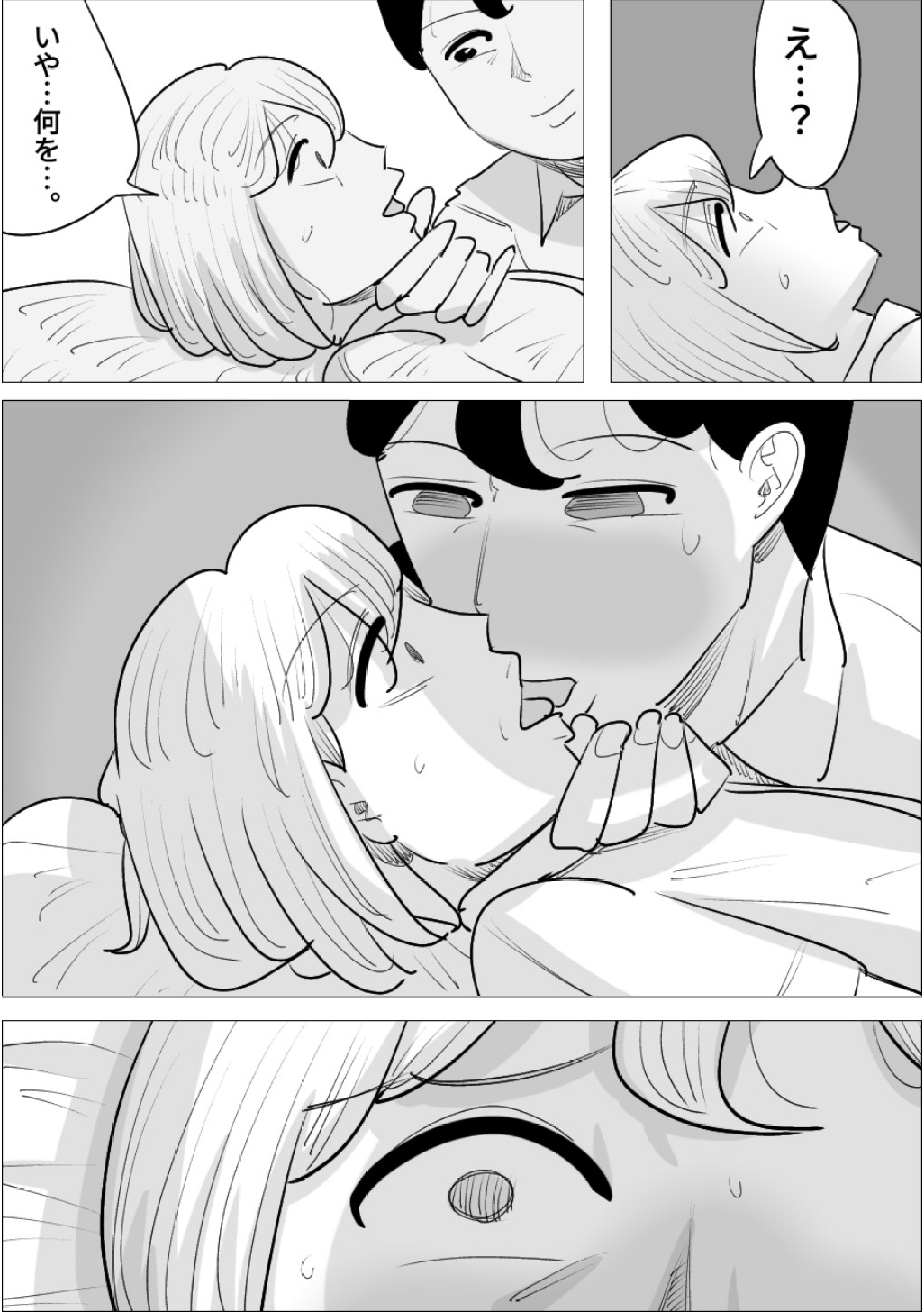
大丈夫かい？
顔が赤くなってるよ。
いや、これは…

僕が保健室へ連れて行ってあげよう。
いや、大丈夫ですっ。自分で歩けますしっ。
いいよ。遠慮しなくていいからさ。

保健室
あの…別にもういいですよ？看てもらわなくても。
わざわざありがとうございました。


もう大丈夫か…。
ねえ、君、廊下で女子と歩いていたけど
あの子、彼女かい？

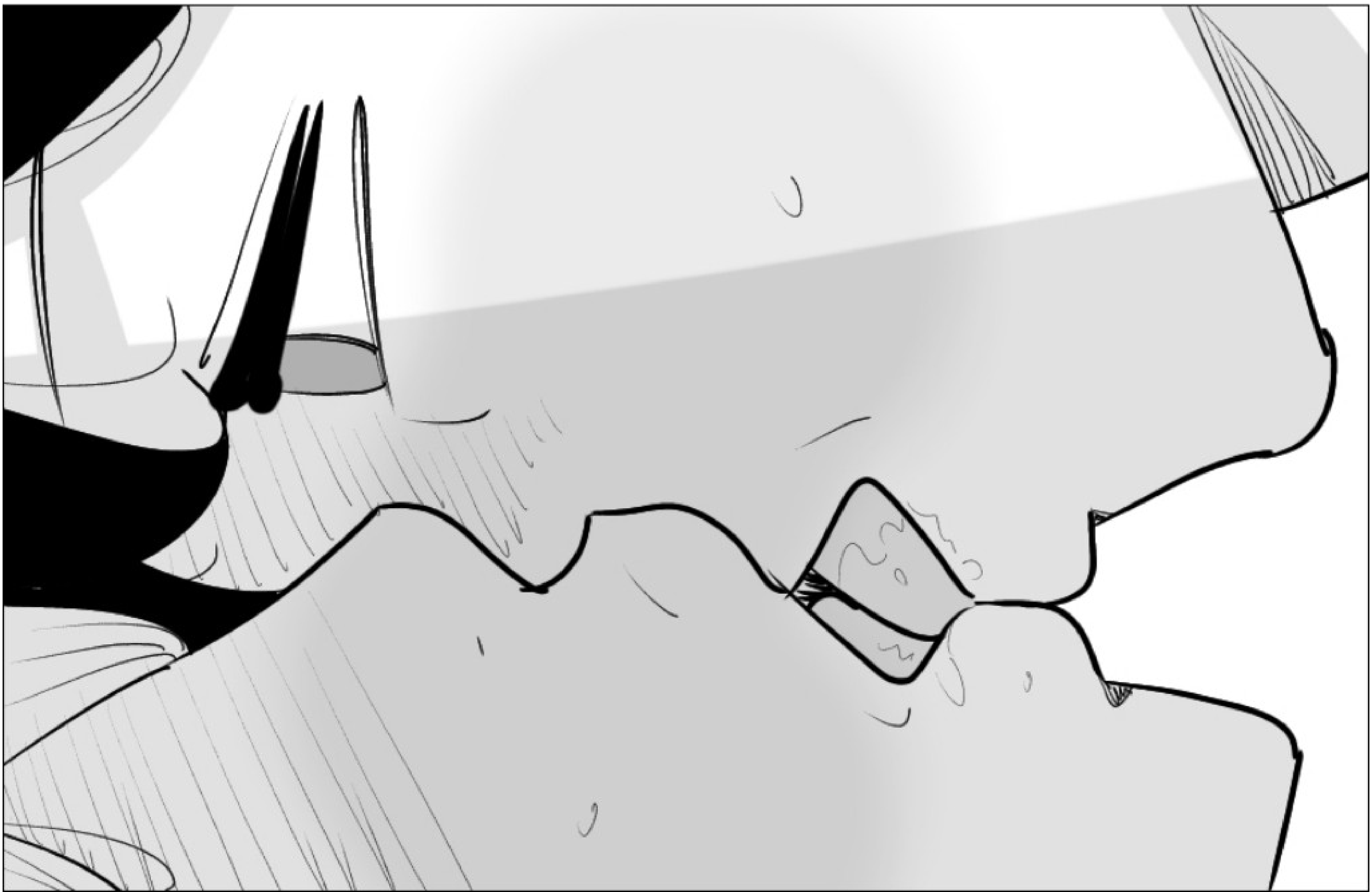
え？
そうですけど、
それが何か…
なあ、あの子とは別れて、
僕と付き合ってくれよ。


え…？
いや…何を…。

なっ
何するんですかっ。

僕、君のこと好きだ。
君のこと…
僕のものにしたい。

ちょっ
ちょっと待ってっ。



ちょっ
勝手に
脱がさないで
くださいっ…。
ふふふ。
なんでだい？
こんなに大きく
なってるじゃないか。
嘘…。いや…違う…。
興奮したんじゃなくて…。

ちゅ。
あっ…やめてくださいっ。
怖がらなくていいよ？
君は僕に任せていればいいから。

うわ〜。すごい。
こんなにビンビンじゃないか。
ビンッ

彼女に申し訳ないとか
思わなくていいんだからね？
ちゅっ

僕が君のこと、抱いてあげるよ。

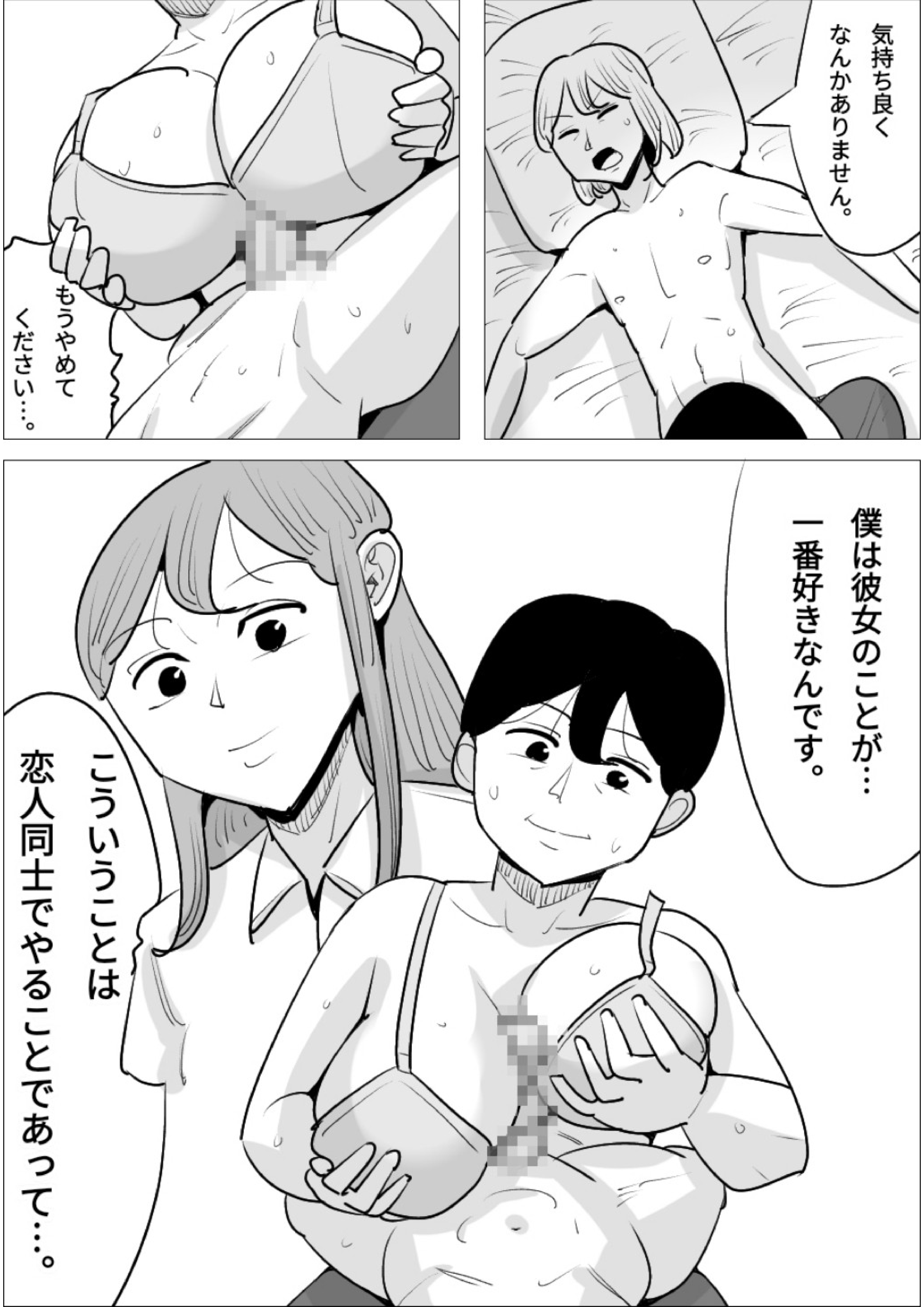
やっ
やめてくださいっ…
あんっ
やめってっ…

どうだい？
気持ちいいだろ？
声出していいからね？

うふふ。君のチンポ、僕のおっぱいで挟まれちゃった。
すごいだろ？僕、めちゃくちゃ巨乳なんだぜ。

うふふふ。
反応がうぶで
可愛いなあ。

あっ・・・
あっ…やめてっ
大丈夫かい？
もう出そうなんじゃないか？
出していいんだぞ？
君も年頃の男の子なんだから
我慢出来ないだろ？

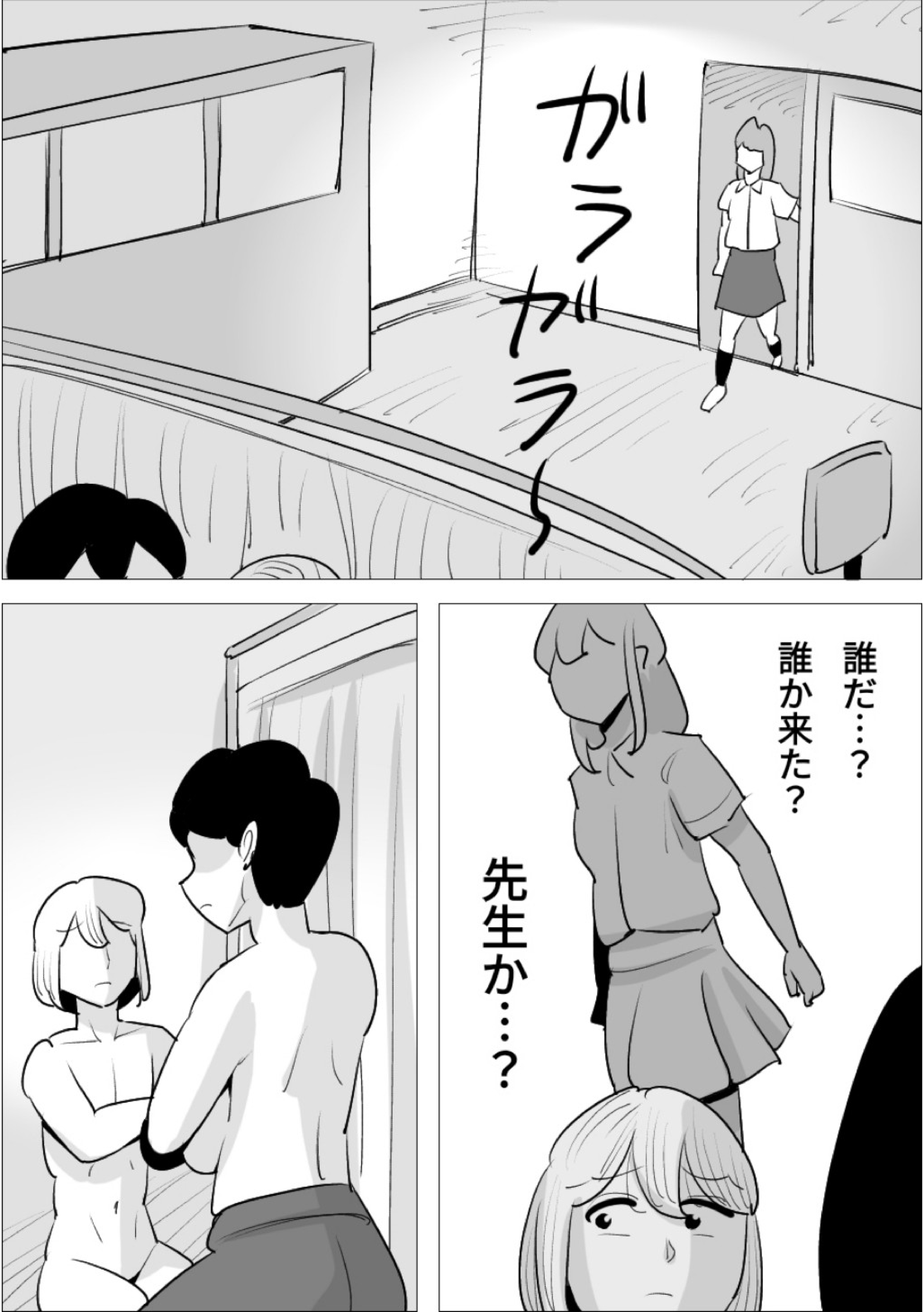

気持ち良くなんかありません。
もうやめてください…。
僕は彼女のことが…一番好きなんです。
こういうことは恋人同士でやることであって…。

そうか、やっぱり彼女のこと好きなんだね。
可愛いなぁ。
でも、もっと君のこと、手に入れたくなっちゃったよ。

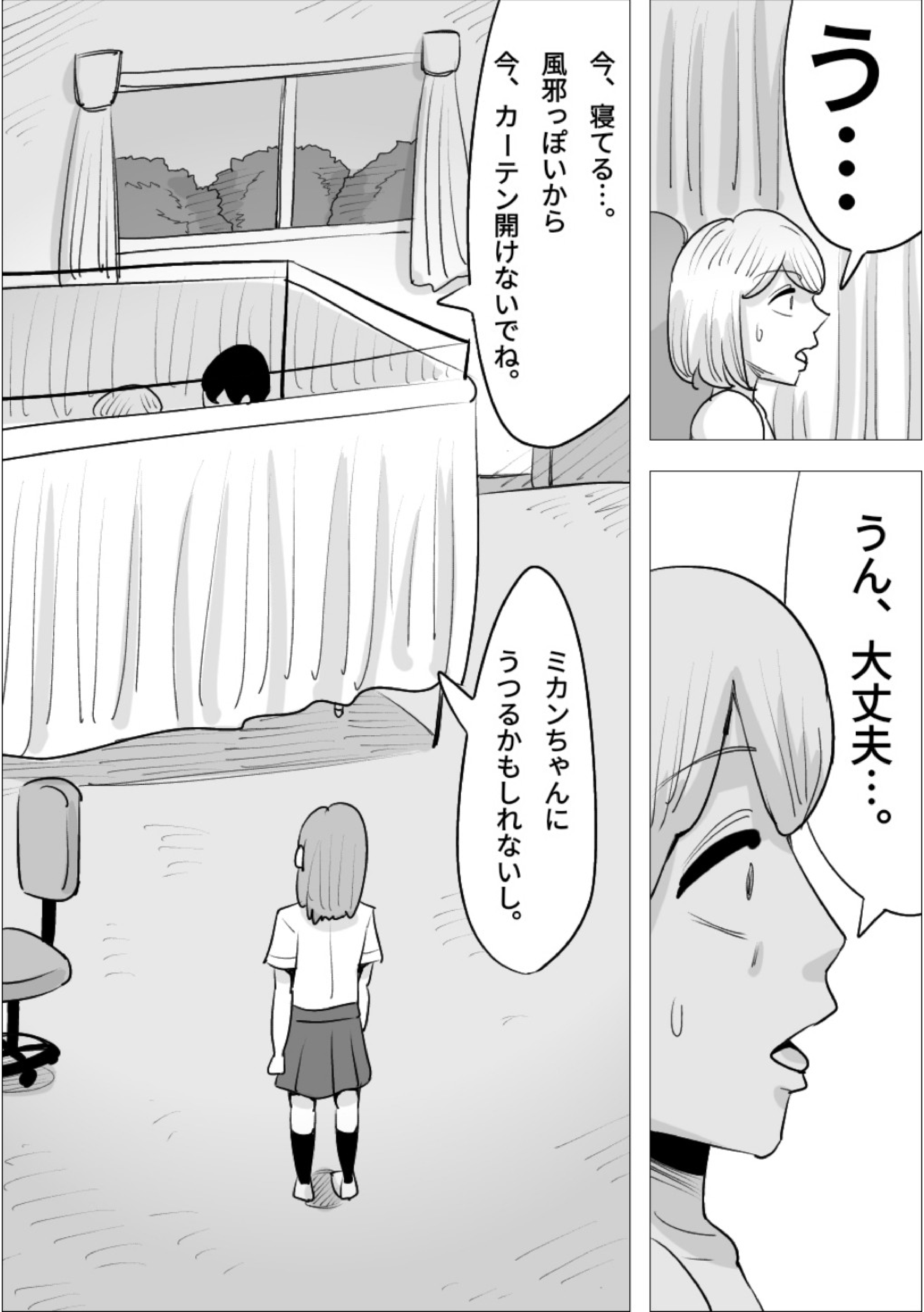
おっ…
大きい…
触っていいんだよ？

いやっ…ダメですって
もうこの辺にしましょう。

でも…
すごく
柔らかいな…。


ガラガラ～
誰だ…？
誰か来た？
先生か…？

島田くん…。
なんか具合悪いの？大丈夫？
この向こうにいるのは…ミカンちゃん…。

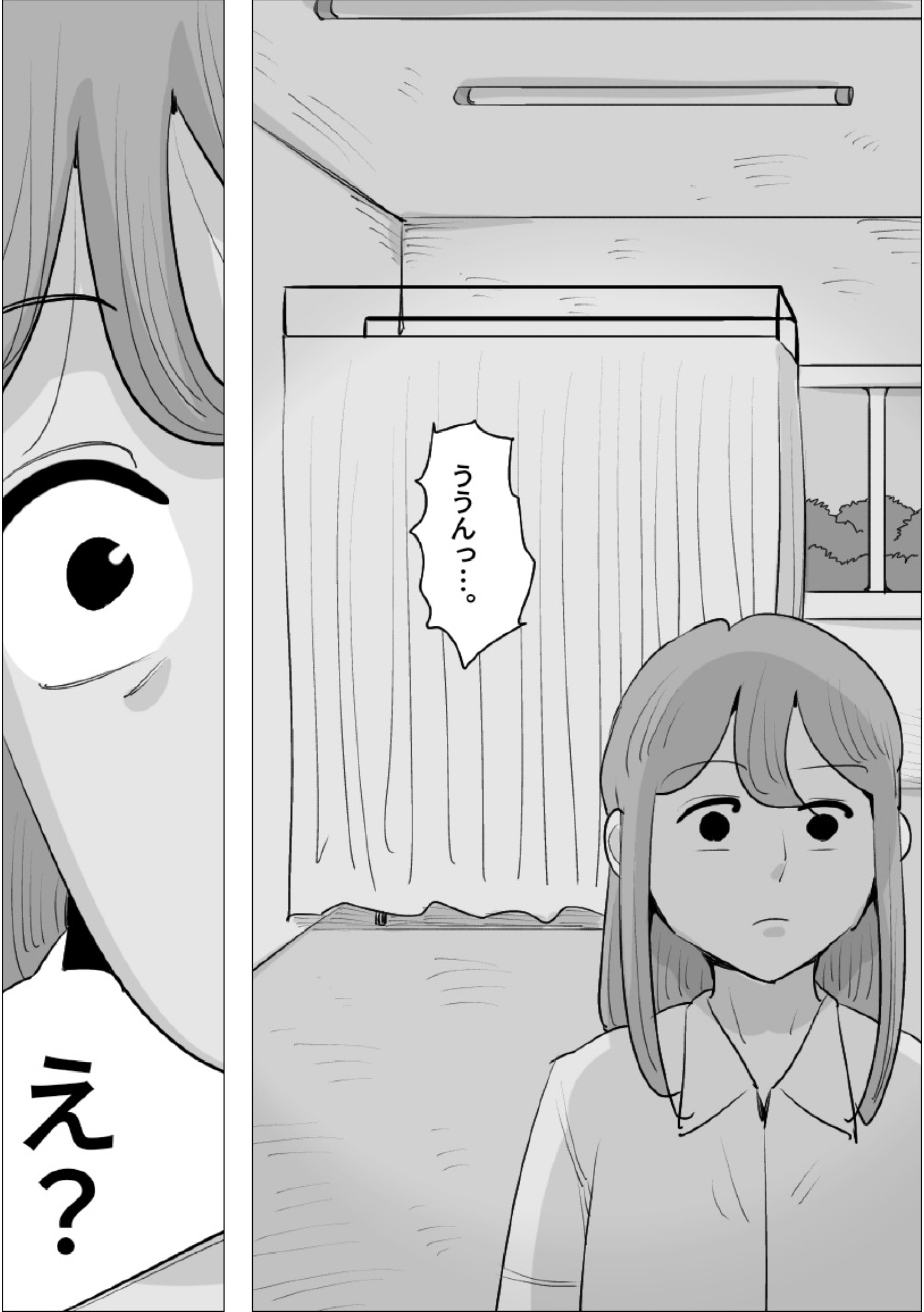


う・・・
うん、大丈夫…。
今、寝てる…。
風邪っぽいから
今、カーテン開けないでね。
ミカンちゃんに
うつるかもしれないし。

彼女に嘘ついたね。
これで君も共犯だよ。
いや…違いますっ。
誤解されないように
しただけで…。

ちょっと…何してるんですかっ。
もう我慢出来ないでしょ？最後までしてあげる。
そうか…。それじゃあ、私、もう行くね…。
それじゃあ、お大事に。

ぬぷっ


ううんっ…。
え？

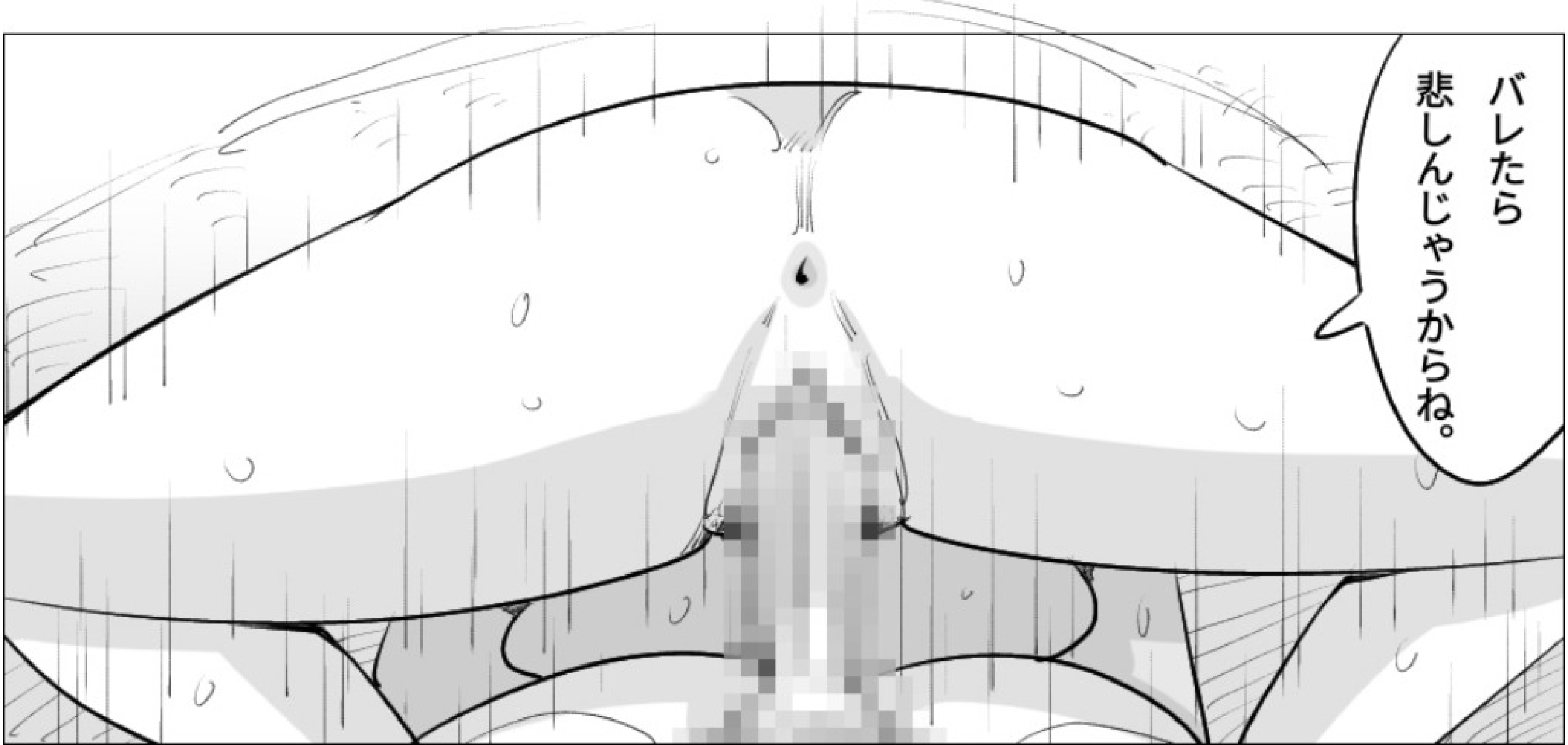
なんかあったの？島田くん…。

……。
返事ないな…。
寝ちゃったのかな…。
くちゃっ
くちゃっ

ん…？
何の音…？
くちゃ
くちゃっ
ギコ
なんか
ねちゃねちゃ
してる感じの音。
ギコギコ
言ってるのは
ベッドの音？

ギコッギコッ
ぐちゃっぐちゃっ

あんまり声出さないで？彼女にバレちゃうよ？


バレたら悲しんじゃうからね。

開けるなって
言われたけど…。
何があるのか…
確認しないと…

どうかしたの？
緑山さん…。
ああ、すみません。
島田くん…
大丈夫かなって思って…。
そうね～。
疲れが溜まって
倒れただけだと思うけど。
今は寝てると思うし
後にしたほうが…。

そうですね…。
わかりました…。

ごめん…
ミカンちゃん…。